あなたの思う、男女共同参画ってどんなもの？？

「男女共同参画」

よく耳にするこの言葉。細かい定義は何だろう？と、調べてみました。

すると、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」という法的な定義があるようです。（男女共同参画社会基本法第２条）

なんだか難しいですね…。ここまでの定義を把握したうえで、「男女共同参画」という言葉を使っている方は少ないのではないでしょうか。

あくまで私個人の考えではありますが、「男性も女性も、どんな場面においても性別による差別を受けず、性別による固有の役割を設けることなく、共に対等に、尊重し合える社会」と、かみ砕いて考えています。

ここで少し、我が家の話をしてみようと思います。あくまで我が家の中の「男女共同参画」であり、皆さんに受け入れられないこともあるかと思います。決して価値観の押しつけではないので、ご容赦くださいね。

私には、配偶者と、子が２人います。結婚して子を授かった時、配偶者と決めたルールがあります。それは、

「夫婦で協力して、仕事・家事・子育てをやっていくこと」です。

ただ始まってみると、まさに「言うは易し、行うは難し」でした。

まず、私は恥ずかしながら、結婚をするまで親元で暮らしていたこともあり、家事が全くできませんでした。白米を炊く時に、炊飯器内釜の目盛りまでお米を入れてしまったことは、今となっては笑い話ですが、当時は必死だったのです。そんなこんなでたくさん失敗をしながら、一つ一つ家事を覚えました。

逆に配偶者は、仕事で苦労をしました。特に子を授かってからの転職は困難を極め、１年置きに仕事が変わる、ということが続きました。離職をすると、せっかく子の大好きな居場所になったこども園を退園することにもなるので、子のためにも、仕事をし続ける必要があったのです。

他にもお互いの体調、実家のこと、子の病気など、たくさんの困難があって夫婦関係も悪くなり、何度も何度も、衝突しました。

こんなことなら、最初から私は仕事に専念し、配偶者には家事・育児に専念してもらったら、よかったのだろうか？やはり、古き日本の固定観念「男は働き、女は育児と家事をする」には、深い意味があったのか？何度も問いかけながら、惰性で我が家の男女共同参画を続けた時期もありました。

そして今、「夫婦で協力して、仕事・家事・子育てをやっていくこと」の約束をしてから約１２年。第１子は小学６年生となり、第２子は小学３年生になりました。

子どもたちが、両親の仕事や家事をおぼろげに理解できるようになって、「放課後児童クラブに迎えに来て、炊事掃除洗濯と家計の管理をする父」と、「フルタイムで夜遅くまで仕事をする母」を、尊敬してくれている・・・ような気がしています。

もちろん、専業主婦（夫）のご家庭もたくさんあるかと思います。こども園よりもご家庭で過ごすことで、両親の肌から伝わる愛情をいっぱい受けることができる、という考え方もあります。ただ私の家庭においては、ここに至るまで約束を維持するためのたくさんの障壁がありましたが、一つ一つを乗り越え、今を迎えることができて、本当に良かったと思っています。

だって、約束がなければ、私は白米を炊くことができず、掃除洗濯もできず、家計も配偶者まかせの父親だったかもしれないのです。そしてそれが当たり前の日常に溶け込んでしまった時、そこから抜け出すことは、とても大きな労力が必要です。そのような父親を、子どもたちは、尊敬してくれたでしょうか・・・？答えは、分かりません。

ここでタイトルにつながりますが、あなたの思う男女共同参画って、どんなものでしょうか？その形は、人それぞれ、家庭それぞれ。答えはありません。いえ、答えがないのではなく、答えは、それぞれの中にしか、ないのです。

私のように、「我が家の男女共同参画」をしっかり話し合って約束することが全てではないと思いますが、もし、家庭の夫婦間での役割に疑問を持っている方がいたら、今一度立ち止まって、自分の中の答えを見つけたり、夫婦間で話し合ってみては、いかがでしょうか。

徳さん